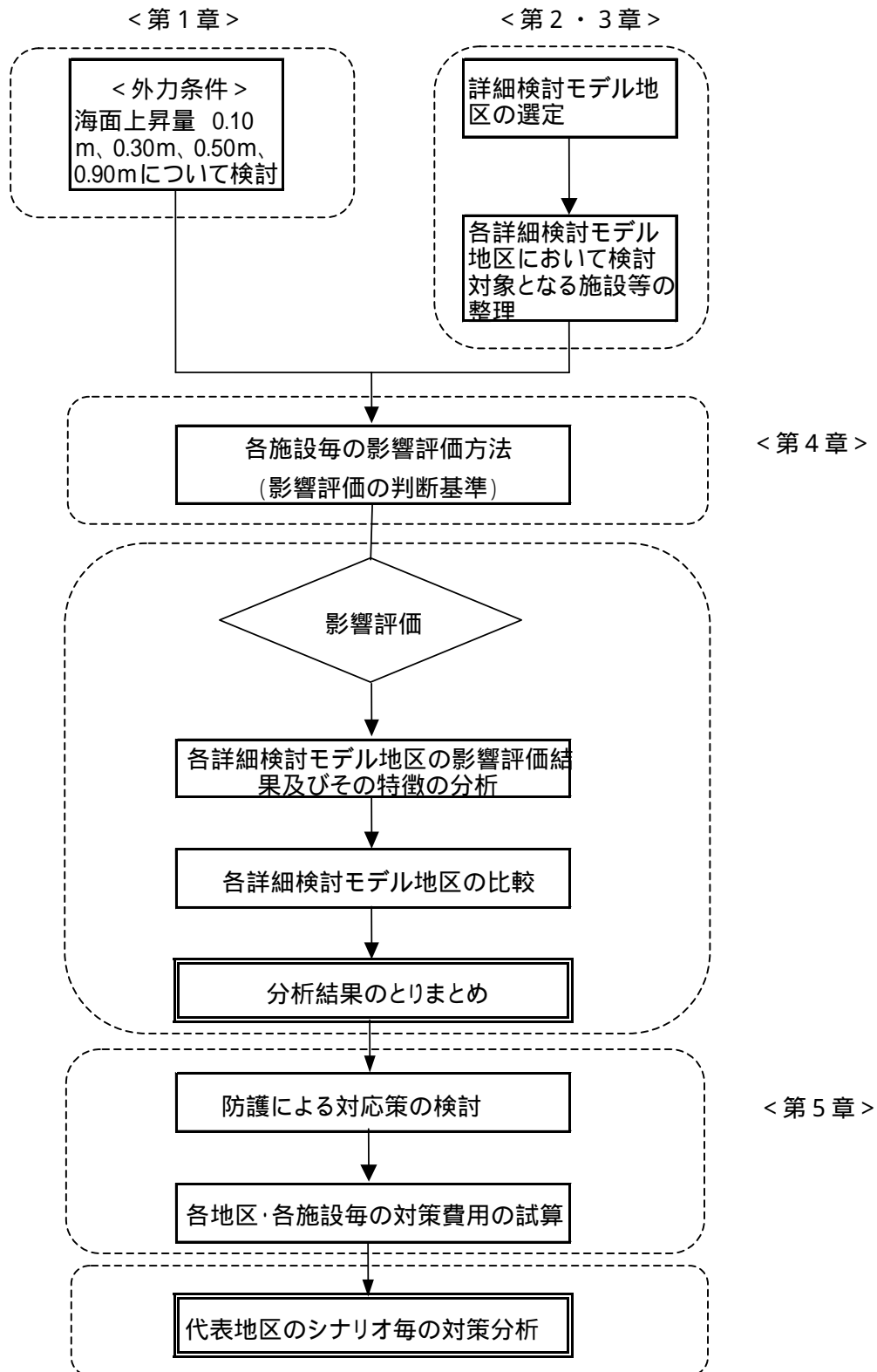


第1章 調査の実施方針

1. 検討フロー

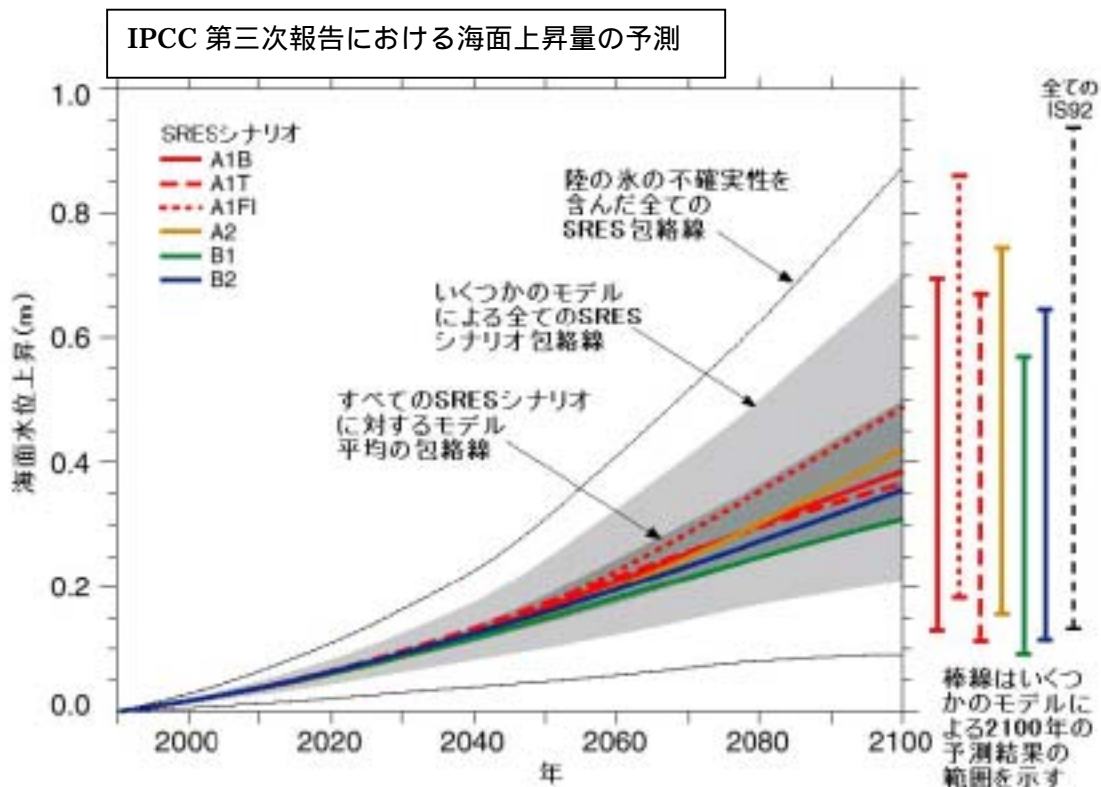
海面上昇による国土保全対策の基本的方向性を把握することを目的とし、海面上昇量の外力条件を設定し、詳細検討モデル地区についてその影響を把握するとともに、時間軸を入れた対策を検討する。



2. 検討シナリオの設定

対策に時間軸を検討するために設定

海面上昇以外の要因による変化や予測精度の問題もあるので、2100年を見通したシナリオを設定(上昇現象の現れ方や予測精度の向上にあわせて適宜ローリングすべきものである)



出典：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）
 第三次評価報告書 第一次作業部会報告
 政策決定者向けの要約（気象庁訳）

検討シナリオ 1990年に対する2100年の海面上昇量

高位：陸の氷の不確実性を含んだすべてのSRESシナリオ包絡線（0.90m 0.88）

中位：全てのSRESシナリオに対するモデル平均の包絡線（0.50m）

低位：全てのSRESシナリオ包絡線（0.10m 0.09m）

3. 検討海面上昇値の設定

海面上昇の影響把握のために設定

対策を検討するための目安として設定

検討海面上昇値

: 0.10m : 0.30m

: 0.50m : 0.90m